



おなかの中で

妊婦歯科健診

妊婦はもちろ
生まれてくる赤ちゃんのためにも

妊娠中は歯周病や虫歯が進みやすくなります。女性ホルモンの分泌増加や、つわりで歯磨きが十分行えないことによるものです。

重度の歯周病は、胎児の成長に影響を及ぼすこともあり、妊婦に重度の歯周病があると早産や低体重児出産を引き起こすリスクが高くなります。

お母さんに治療していない虫歯があると、お口の中の虫歯菌の数が多くなり、お口の中がきれいだと、生まれてきた赤ちゃんに虫歯菌が移りにくくなります。



赤ちゃんの歯って？

お腹の中では、もう赤ちゃんの歯が出来始めています。最初に生える下あごの前歯(乳歯)は胎生7週で、第一大臼歯(大人の歯)は胎生4カ月で出来始めます。



誕生とともに

乳幼児歯科健診

お口やからだの健康を生涯保つために、保護者が適切な口腔ケアや、正しい食生活について知り、子どもが毎日を生き生きと過ごせるように習慣づけをおきましょう。

市では、1歳6カ月、2歳、3歳6カ月の乳幼児に歯科健診(個別検査と集団指導)を行っています。個別検査では虫歯、軟組織疾患、不正咬合、不良習癖のチェックとカリオスタット検査(う蝕活動試験)お口の中の歯垢や酸の状態から虫歯の危険度のチェックを行います。

1歳6カ月 カリオスタット検査をします。歯の本数が増え、食べることに興味を示す時期です。生えたての歯は軟らかく虫歯になりやすいため保護者による口腔ケアや、食生活を整える習慣が重要となります。

▽集団指導「ぶくぶくうがい」の練習に
ついでに

2歳 カリオスタット検査、フッ素塗布とブラッシング指導、生活指導をします。また、カリオスタット検査の結果、虫歯にかかりやすい幼児や希望される幼児には、良い歯の教室(2歳1

カ月)にて歯ブラシ指導とフッ素塗布を行っています。

▽集団指導「2歳児には生活リズムと幼児期の虫歯予防について」

3歳6カ月 歯科健診と歯科衛生士による歯についてのお話、歯磨き指導を行います。一般的にすべての乳歯が生え揃います。生活行動範囲が広がり食習慣が多様化するため虫歯のリスクが高くなる時期ですので、保護者による仕上げ磨きや食生活のあり方などを見つめ直すことが必要です。また指しゃぶりや、唇や爪をかむ、舌で歯を押すなどの癖が習慣となっている幼児は上顎前突(出っ歯)や開咬(上下の前歯が噛み合わない)など歯並びやかみ合わせへの影響が懸念されますので、適切な指導を受けて改善していく事が必要です。

▽集団指導「乳歯の完成期に永久歯にむける歯ブラシ指導と今後の定期健診の重要性について」



学校に入学したら

学校歯科健診

年に1回、5月6月に定期健診、11月頃に就学時健診を実施しています。学校、園での定期歯科健診未受診の児童・生徒の健診を、会員の歯科医院にて無料で行っています。

管理されている「他律的健康づくり」から成人期以降の自らの意思決定や行動選択による「自律的健康づくり」へと移行していく必要があります。

その大切な転換期が学齢期です。学校における、歯やお口の健康づくりを含む健康教育は一生の健康づくりの方向や質を決定するといえます。

歯科健診の目的と項目

学校における歯やお口の健康診断は、こどもが健康診断で自分の歯やお口の健康状態を具体的に知り、健康の保持増進に対する意欲を一層高めることを目的としています。

健康診断項目は、①姿勢、顔面、お口の状態②顎関節③歯列、咬合④歯垢の付着状態⑤歯肉の状態⑥歯の状態などです。ただし、健康診断は「健康」「要観察」「要医療」にスクリーニング(ふるい分け)することを目的としたもので医学的な立場から確定診断を行うものではありません。

守口市立の園の歯科園医、学校の歯科校医は守口市歯科医師会の会員が担っており、市民が大人になって歯やお口の健康を維持できるように学校歯科保健活動に従事しています。



学校における歯やお口の健康づくり(学校保健活動)の意義

人の生涯にわたる健康づくりは、乳幼児期のように保護者の手に委ねられ



中学校を卒業したら

成人歯科健診

健康診査の際に

市では市民保健センターにて、成人歯科健診を実施しています。対象者は15歳以上の市民全員です。他市町村が各医療機関で個別に健診するのと違い、定点で健診することで、バラツキの少ない診断となることを大きな特徴としています。

①歯の状況

治療が必要な虫歯の有無や、歯が抜けたままになっている場合、部分義歯の処置が必要かどうかを診察しています。

②歯石・歯肉の状況

歯周病の原因となる歯石の沈着の有無と、歯肉の健康状態(出血、腫れの有無、歯周病の有無と進行の程度)を、診察と検査(CPITN歯周病進行測定検査、ペリオクリン(唾液中の潜血の検査)で調べます。

③口腔清掃状態



口腔内の清掃状態をチェックする。特に歯垢の付着状況をみています。

④その他

楔状欠損、咬合異常、顎関節疾患、粘膜疾患などを発見します。

⑤義歯関連

義歯の清掃状況、適合状況、新調もしくは修理が必要かどうか判定します。

⑥パノラマレントゲン検査

他市町村ではほとんど実施されていない検査です。

歯周病の進行度の他、顎骨内の腫瘍や親知らずの発見などに役立っています。



パノラマレントゲン検査は15歳~70歳まで5歳きざみで撮影、判定しています。